南海トラフのスロー地震と野見湾のスーパー引き潮の試算

Some Trial Calculations of Slow-earthquake in Nankai Trough,and the Super-ebb at Nomi-bay Susaki.Kouchi.in 1946.

藤原 實 [1]
Minoru Fujiwara[1]

[1] なし
[1] none

１９４６年の南海地震に先行した高知県須崎市野見湾のスーパー引き潮について、曲がり板ばねモデルと円形ゲートモデルにより、試算を繰り返した。その結果。
１．海溝型スロー地震は平均的海岸線から土佐湾の沖合い約１００ｋｍの地点を震央として発生した。
２．このスロー地震により、震央を中心とした半径５０ｋｍの円内で平均１９ｍの海底面の沈降があった。
３．海面の沈降は同心円状にひろがり、約１１５ｋｍ離れた野見湾の岸壁に到着したのは、約６時間後の２０日２３時頃であった。以降４時間近くスーパー引き潮が継続したのは、足摺岬、室戸岬を両翼とする土佐湾の地形によるものと推定する。
４．野見湾の岸壁にて、－３．５ｍ強のスーパー引き潮が観測されたのは、昭和南海地震に約１２時間先行した海溝型スロー地震によるものと推定する。